



生徒の皆さんへ

季節は確実に春に向かっており、本日は表彰式、卒業式予行の予定でしたが、島内感染状況が最高レベル4に引き上げられたため、急遽、1・2年生の参加は控えることにしました。また、明日は3年生の卒業式ですが、こちらも三密回避のために、おおむね1・2年生の卒業式への参加は見送りを決めました。

3年生の旅立ちを1・2年生が目にはできないのは本当に残念ですが、お世話になった先輩方への感謝を忘れず、先輩方の足跡に続いて沖高の新たな歴史と伝統を継承していきましょう。3年生の前途に幸多からんことを心から祈ります。

北京冬季オリンピック

カーリング精神を表す「コンシード」とは

今月20日に北京冬季オリンピックが閉幕した。日本選手団は冬季五輪で史上最多の18個のメダルを獲得するなど活躍をもとに数多くの感動をもたらした。一方、開催国の人権問題、コロナ対策、ドーピング問題、審判のあり方など数々の疑問も残る五輪でもあった。この五輪で日本におけるフィナーレを飾ったのが、カーリング日本代表「ロコ・ソラーレ」の銀メダル獲得である。

この最終日に、2大会連続のメダル獲得をめざすロコ・ソラーレの日本は英国と金メダルをかけて対戦する。しかし、残念ながら4-10とされた第8エンド終了時、負けを認めて相手選手に手を差し出した。14日の韓国戦でも、敗れた日本の選手たちがグータッチをかわす姿があった。

負けを認める意味では「ギブアップ」と言いたくなる光景だが、カーリングでは英語で「譲る」という意味の「コンシード (concede)」を使う。カーリングはもともと15世紀のスコットランドが発祥とされ、初期は上流階級が楽しんだと言われる。貴族社会のスポーツだったがゆえ、相手をリスペクトして『精一杯戦ったが、相手が素晴らしかったから今回は勝ちを譲る』として、コンシードと呼ぶようになったようだ。ギブアップだと「降参」の色合いが強くなるが、コンシードには相手の強さに敬意を払う意味がある。プレイ中でも相手に素晴らしいショットが出たら、『今の良かったね』と褒め言葉をかけることがあるそうだ。確かに、他の競技では存在する審判がいないからこそ、お互いにリスペクトする気持ちが大切なのだろう。そして、ロコ・ソラーレの苦しい局面でも笑顔絶やさない前向きな姿勢は、海外のチームや多くのメディアから称賛されている。

ロコ・ソラーレとは彼女らの出身地である北海道常呂町の常呂っ子からロコ、イタリア語で太陽を意味するソラーレに由来する。彼女らの活躍は、暗い世相に日差しとなる太陽であり、ロコ・ソラーレのコミュニケーション力の高さや互いを信じて、協力し合う姿に学ぶべき点が多くあると感じる。



未来へ

谷川俊太郎

道ばたのこのスマレが今日咲くまでに
どれだけの時が必要だったことだろう
この形この色この香りは計り知れぬ過去から来た

遠く地平へと続くこの道ができるまでに
どれだけのものが人々が通ったことだろう
足元の土に無数の生と死が埋もれている

照りつけるこの太陽からいつか冷え切るまでに
目に見えないどんな力が働くのだろう
私たちがまたその力によって生まれたきた

人は限りないものを知ることはできない
だが人はそれを生きることができる
限りある日々の彼方を見つめて

未だ来ないものを人は待ちながら創っていく
誰もきみに未来を贈ることはできない
何故ならきみが未来だから



graduation



卒業を英語で表現すれば、誰もが知る「graduation」です。私は英語が専門ではないので詳しくは分かりませんが、語源はラテン語のgradus（グラドゥス）で、「階段、段階」を意味するそうです。つまり、階段を一步ずつ登るイメージが「graduation」という英語にはこもっているそうです。明日、旅立つ3年生には大人への階段を確実に登ってほしいと思っています。

また、つづりの「grad」はgrade(学年、等級)から来ているようです。gradには、stepのような意味もあるので「一步一步進む」と考えれば、簡単に単語も覚えられるそうです。当然、upgradeは上への一步であり、downgradeは下への一步だと思えます。「graduation」によく似た単語として「gradation」があります。これは一步一步変わっていく、段階的な変化をさす言葉のようです。

「graduation」「gradation」いずれにしても、誰もが人生においても、階段を一步一步登るようにupgradeできたら、いいですね。卒業生も在校生も全員がstep upするような生き方してほしいと願っています。

保護者の皆様へ

特に、3年生保護者の皆様方、3年間の長きにわたり本校の教育活動に御理解と御協力をいただき心から感謝申し上げます。1, 2年生保護者の皆様方におかれましても、時を待たずして卒業の日が訪れます。学校としてもお子様がその日を迎えるまで、職員一丸となって努力して参ります。今後とも、感染症への不安が消えない日々が続きますが、何卒、御理解と御協力をお願い致します。